

シルクロード終末は1524年？

中之島でアジア世界史学会

アジア世界史学会の基調講演で、シルクロード研究の新たな知見を紹介する
 北京大学の李伯重教授 大阪府北区中之島の大阪大学中之島センター



「シルクロードの終焉？」をテーマに問題提起。1524年、明朝が辺境守備隊を長城の内側に移した時点で、シルクロード交易はほぼ終末を迎えたと分析した。この頃には、環境が厳しい陸路よりも既に海運が卓越。明朝は倭寇や中央アジアの騎馬民族への対応に追われて北西辺境の要路を閉ざさざるを得ず、内陸の交易は重視されなくなっていった実態を示した。

続いて、インド、ネルー大学のアディティア・ムカジー教授が、植民地支配を経てインド経済がどう変容したのか、研究結果を披露した。

AAWH会長の秋田茂・大阪大学大学院教授は「この学会を、専門や国籍を超えた幅広い学際協力の場にしたい」と訴えた。

専門の枠組みを越えた視点から世界史の再評価を試みる「アジア世界史学会」(AAWH)第4回大会が5日、大阪府北区の大阪大学中之島センターで始まった。6日までの2日間で、100件以上の発表がある。

2008年創設のAAWHは約3年ごとに大会を開き、国内開催は2回目。欧米も含む約20カ国・地域から約150人が出席した。5日には2件の基調講演があった。

北京大学の李伯重教授が

(編集委員・永井靖二)